

# 令和元年度評価

## 輪之内町教育委員会の権限に属する 事務の管理及び執行の状況報告書

令和2年7月

輪之内町教育委員会

# 目 次

## 第1章 点検評価結果の概要

1. はじめに	1
2. 点検評価の実施について	1
<評価について>	1
3. 点検評価結果について	1
点検評価結果全体の概要	1
4. 点検評価結果の詳細	2
(1) 教育委員会の活動の状況	2
(2) 事務事業の執行状況	2

## 第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

1. 教育委員会の活動の状況	3
2. 事務事業の執行状況	3～4

# 第1章 点検評価結果の概要

## 1. はじめに

輪之内町教育委員会では、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和元年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、その結果に関する報告をここにまとめました。

## 2. 点検評価の実施について

この点検評価は、教育委員会の会議による審議状況や教育委員による視察等の調査活動と教育委員会が令和元年度に実施した事務事業の中から主要な20領域について、実績や成果と課題を記述し、次に示す4区分で達成度を評価しました。

<評価について>

点検評価においては、次の4区分により達成度の評価を行いました。

評 定	内 容
A	順調に達成しているもの 80%以上
B	おおむね順調に達成しているもの 50%以上 80%未満
C	達成見込みであるが課題があるもの 20%以上 50%未満
D	順調でないもの 20%未満

## 3. 点検評価結果全体の概要

◇ 教育委員会の活動状況
① 教育委員会会議の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A)
② 調査活動の状況・・・・・・・・・・順調に達成している (A)
◇ 事務事業の執行状況
A 順調に達成しているもの・・・・・・・・・・ 10/20 事業 (50%)
B おおむね順調に達成しているもの・・・・・・ 10/20 事業 (50%)
C 達成見込みであるが課題があるもの・・・・・・ 0/20 事業 (0%)
D 順調でないもの・・・・・・・・・・ 0/20 事業 (0%)

## 4. 点検評価結果の詳細について

### (1)「学校教育」の執行状況について

学校教育について、評定と数値で評価することとした。

町内小中学校に勤務する教職員の自校評価を点数化して、町内の学校の平均値を求めた。比較するために過去のデータをもとに点数化した。

評定だけでは分からない細やかな変化から、次年度への課題は明確にできるようにした。

### (2)「社会教育」の執行状況について

社会教育について、評定で評価することとした。

各担当者が参加者の感想やアンケート、自己評価などで総合的に行った。

## 第2章 各事務事業ごとの点検評価シート

### 1. 教育委員会の活動状況

別紙「点検評価シート」のとおり

### 2. 事務事業の執行状況について

別紙「点検評価シート」のとおり

教育委員会の活動状況

点検項目	実績	成果と課題	R1評価	H30評価	H29評価
教育委員会会議等の実施状況	<p>【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12回 臨時会議 3回 審議件数: 専決報告 0件 議案 18件 内可決 18件 【総合教育会議】 2回 【町教委学校訪問】 4校実施</p>	<p>【成果】 定例会議では教育長会等の報告に加え、教育情勢に関する資料や新聞記事などをもとに、教育委員会の立場や役割について活発に討議された。また、輪之内町教育大綱、輪之内町教育振興基本計画、輪之内町いじめ防止等のための基本方針並びに職場環境を悪化させる行為の防止及び対応に関する指針及び運用要領の見直しをすることができた。</p> <p>【課題】 教育の今日的な課題について、十分な協議時間の設定が難しいため、課題に対する深い議論が尽くせない傾向がある。</p>	A	A	A
調査活動の状況等	<p>・全国町村教育長定期総会 (5月11日) ・西濃地区教委連絡協議会 (6月14日) ・西濃地区教委連絡協議会研修会 (9月4日) ・町内視察 5月～9月 各学校 ・岐阜県市町村教育委員会連合会 (11月8日) ・町研究発表会 (輪之内中学校 10月17日) ・郡教育委員研修視察 (1月21日)</p>	<p>【成果】 各種研修会等に参加し、国・県の新規施策や他の市町の取り組み状況等の情報を得ることができ、輪之内町の施策に反映したり、検討を加えたりすることができた。また、地域学校協働活動など新しい施策に対して研修会に積極的に参加し、岐阜県と岐阜大学の共同設置である共学センターと連携し、輪之内町地域学校協働本部を立ち上げ、また、各学校において「学校本部」を設置することができた。</p> <p>【課題】 町研のみならず、町内小中学校の授業交流の機会をもち、意見交換を行い、学力向上のために各学校統一した取組を支援する体制づくりをする必要がある。 地域学校協働活動の今後の推進について、さらなる「熟議」が必要である。</p>	A	A	A

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。  
達成率 80%以上--A 80%～50%--B 50%以下--C

領域	重点目標	成果と課題	R1評価	H30評価	H29評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○支援員や協働サポーターの配置により、仕事が軽減され、教員の仕事量を減らすことができた。	B	A	A
		○ノー残業デーや行事の削減、勤務時間内での研修などの取組で、時間に余裕ができ、活力ある経営に繋がった。 △8の付く日の退勤時間を推進し、国からの方針である月45時間以内の時間外勤務を推進する。	77.4	81.5	80.1
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○終礼の児童交流や研修により、いじめについて考える機会が定期的に設けられていたため、いじめや問題行動、教育相談のあり方について考えることができた。	B	B	B
		○プログラミングの研修が積極的に行われ、来年度の実施に向けて準備を進めることができた。 △本格的に始まる外国語の指導方法や評価について研修を深める。	79.3	79.7	76.8
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○ペア・グループ交流やフリートーク等の対話活動を取り入れて指導を行い、仲間と関わり合う中で学習させることができた。	B	B	B
		○人権教育の観点を明確にして授業改善をしたことで誰でも分かる授業づくりにつながった。 △主体的・対話的で深い学びを生み出す道具としてのタブレットの活用について、さらに研究を進める。	75.8	74.2	75.3
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○毎時間話し合い活動を行い、自分の生活と結びつけた振り返りが行われるように指導し続けた。	B	B	B
		○道徳ノートの形式を統一することで、自分の生活や生き方を見つめる場を位置付けることができた。 △具体的な場面を、さらに児童一人一人の個別の場面にまでつなげて考えさせ、日常生活とつなげることができるようにする。	71.6	74.9	72.3
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○英語専科教員とALTとの打ち合わせ時間を確保し、指導内容や指導方法の確認をして授業に臨むことができた。	B	B	A
		○6年生の修学旅行では、外国の方と出会ったとき、堂々とした態度で躊躇なく積極的にコミュニケーションをとる姿があった。 △社会科の授業で環境問題の英字新聞を活用するなど教科等横断的な視点で授業を展開していく。	77.2	77.1	82.7
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○ふるさとを教材にした学習が定着している。地域人材の活用も盛んに行われている。	B	B	B
		○中学校1年生の地域の企業訪問、中学校2年生の防災士養成講座、職場体験学習は地域の協力もあってよい学びになっている。 △児童生徒の疑問や活動したいという思いと活動がずれないように指導計画を立てる。	72.7	74.2	72.3
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○QU検査の結果から、教師の観察だけでは計り知れない子どもの内面を見ることができ、支援の仕方について考えることができた。	B	B	B
		○所属感を高め安心して生活することができるように、全体の場でよい行為を褒めたり、全員で頑張ったことをみんなで喜び合ったりして望ましい人間関係を形成しようと努力した。 △QU検査を2回実施していることを生かし、具体的な手立てを実践する。	77.0	79.4	75.2
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○日常の観察や教育相談、アンケートにより、児童の困り感を把握するよう努めることができた。	B	A	B
		○学年に関係なく、複数の教師でよい姿を褒めたり、気になる児童に声をかけたりすること、温かい人間関係作りと指導を行うことができた。 △定期的にケース会議を行い、具体的な支援について検討する。	77.2	81.9	78.2
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○係の仕事に責任をもって取り組ませることを通して、仕事に対する考え方や取り組み方を学ばせることができた。	B	B	B
		○校外学習や地域講師を活用した授業等により、いろいろな職業について学ぶ場を位置付けた。 △来年度よりキャリアパスポートが導入されるので、どのように扱うとよいかを検討し、効果的に活用していく。	68.7	72.4	73.9

健康安全教育	運動に親しみ、進んで健康で安全な生活を送る態度を育てる。	○中学校2年生の防災士講座や命を守る訓練を通して、日頃から防災への意識を高めることができています。 ○職に関する指導を、栄養教諭と担任が連携して計画的に進めることができた。 △予告なしでの訓練や担任がいない時の訓練などを行い、児童生徒が自ら判断し行動できる力を身に付けるようにする。	B	A	A
			75.8	80.8	80.0
特別支援教育	一人一人の教育的ニーズに応じ、自立し社会参加するための基盤となる力を育てる。	○別支援学級の児童についても、通常学級に在籍する児童についても、手厚い支援がされている。 ○通級指導教室では、通級指導担当と担任が情報共有し、その子の課題となることについて援助することができた。 △人的条件や保護者の意向により、支援がされていないところがある。教員と保護者の連携を密にして、児童の様々なニーズに対応していきたい。	A	B	B
			80.8	79.3	78.2
人権教育	自他の大切さを認め、互いに人権を尊重する望ましい人間関係を醸成する。	○人権推進担当教員や担当委員会を明確にしたことで、年間を通して計画的に取り組み、まとめまで行うことができた。 ○いじめについては、些細なことでも見逃さないようにし、絶対に許されないことであるという姿勢でどの職員も指導に当たっている。 △決まった仲間ばかりで遊んで、人間関係が固定しないようにしたい。学級全員での遊び時間をしっかり確保したり、学年(部)間交流の時間をもったりする。	A	A	A
			80.3	85.6	80.2
ICT教育・図書館教育	教育の情報化を推進するとともに、児童生徒の情報活用能力を育成する。	○学級全員分数のタブレットが導入され、児童一人一人に一台ずつの学習ができるようになった。 ○職員の活用研修が行われ、全職員が使うことができる環境が整った。写真や動画が簡単に撮影できるようになり、積極的に活用できた。 △児童生徒にスキル技能が身に付くと大人以上に学ぶ力も大きい。その分様々な危険に会う機会も増える。情報モラルを繰り返し学習させなければいけない。	A	B	B
			85.1	78.4	75.3

社会教育 ◆各領域の評価は、参加者の感想やアンケート、主催者の自己評価などで総合的に行った。

領域	重点目標	成果と課題	R1評価	H30評価	H29評価
家庭教育	家庭教育に関する学習機会の提供。 子育ての支援と教育環境の整備。 地域づくり会議やPTA等の連携。	○こども園の家庭教育学級は、年間5～8回開催され、参加率は92%～98%が高かった。行事参加型が多かった。 ○各小中学校の家庭教育学級は、年間5～8回開催され、参加率は65%～93%で比較的高かった。行事参加型やサロン型の他に在宅型も多かった。 ○町主催の合同家庭教育学級は外部講師による講演型を年間3回開催した。講座後の質疑応答で講師と交流ができた。参加者が比較的小さいのが課題である。	A	A	A
地域教育	子どもたちの社会参加・地域活動の促進。	○輪之内町小中学生合同会議を開き、「輪之内町情報モラル宣言」の見直しを行った。 ○青少年育成町民会議に関わる地域づくり諸行事にかかわって小中学生がネットモラルに関わる標語やポスター募集に積極的に参加できた。	A	A	A
生涯学習環境	家庭、学校、地域社会が連携し、社会全体で子どもたちをはぐくむ地域づくり活動の推進。	○青少年育成町民会議に関わる地域づくり諸行事を通して豊かな体験活動、健全な社会環境づくりを進めることが出来た。 ○小中学生対象総合的な体験学習講座である「わのうち未来塾」を実施し、豊かな体験学習プログラムを進めることが出来た。また、参加率も高かった。 ○高齢者教室「みつば学級」を開設し、教養・趣味・軽スポーツなど、その時々に応じた分野の講座を通年をとおして実施し、高齢者の生涯学習に取り組んだ。	A	A	A
生涯学習体制・指導者	地域における主体的な社会教育活動を支援する取組の推進。	○町および地区の青少年育成推進員の方のご尽力により、各地区における活動が関係諸団体と連携を図りながら進められ、豊かな体験活動や啓蒙活動、健全な社会環境づくりに貢献した。 △子どもたちが主体となった活動を意図的に仕組んでいきたい。 ※課題が改善されにくい。	A	A	A
芸術文化の振興	文化芸術活動の振興。 子どもの文化芸術体験の充実。	○町文化祭と兼ねて行ったカメラ講座は好評であった。体験講座を今後増やしていきたい。 ○子ども対象の出前講座や「わのうち未来塾」の内容が充実していて、参加者が増えてきた。 △新しい文化サークルを開拓し、活性化を図る必要がある。	A	A	A
伝統文化と郷土の歴史の保護継承	文化財や伝統芸能の保存・伝承・活用への支援。	○「わのうち未来塾」の講座に継続して町内文化財見学を取り入れ、文化財に興味・関心を持たせるようにした。 ○小学生に対して文化財の理解をすすめるため、冊子「輪之内町の文化財」の小中学生版の作成に継続して取り組んだ。 ○伝統文化財継承(6団体)の活動により、小中学生の祭り文化継承をすすめた。	A	A	A
スポーツ推進体制	スポーツ環境の諸整備(スポーツ推進体制の充実と施設の整備)	○小学校区ごとに「地区スポーツ振興会」が設置され、ふれあい運動会を運営し、地域に根ざした活動が行われている。 △利用者の増加により、使用希望日の重複が発生し、施設が使用できない者が増加傾向にある。	A	A	A
	生涯スポーツの振興(県民1スポーツ運動)	○輪之内スポーツクラブが運営する定期教室や、体験型のスポーツ・レクリエーションイベントを開催し、幅広い年齢層へ普及しようと努力している。 △クラブ運営の安定化に向けた人材の確保が必要である。			
	「県民1スポーツ運動」具現のための指導者育成	○スポーツ推進委員や輪之内町レクリエーション協会の有資格者が、講習会や実績を元に、助言者として活躍している。 △悪天候のため、地区スポーツ推進員が事業に参加できる機会が無かった。			